

薩摩川内市次世代エネルギービジョン策定委員会第5回会合の概要

平成24年12月4日

薩摩川内市

【ポイント】

1. 10月19日(金)に開催された上記会合において、事務局より、以下の項目について説明を行った。
 - (1) ビジョン策定委員会第4回会合の概要について
 - (2) 地元作業部会第4回会合の概要について
 - (3) 地域との対話の概要について
 - (4) 次世代エネルギービジョン(案)について
 - (5) 行動計画(案)について
 - (6) 行動計画(案)に関する具体的な事業について
 - (7) 環境モデル都市への申請について
2. また、柏木委員から提出があった「薩摩川内市における具体的取り組みに関するコメント」についても事務局より説明を行った。
3. それぞれの項目に対し、委員から事業実施の判断主体、優先順位付けや予算確保の方法など、多岐に亘るコメントがあった。

委員から頂いた主なコメントは以下のとおり。

1. 地域との対話について
 - (1) 地区コミュニティ協議会では、エネルギーをつくるということに関心が高いようだが、医療や農業、交通などへの意見が出ていない。
 - (2) 薩摩川内市に長く住んでいくであろう若い世代との意見交換会を、今後も引き続き実施してもらいたい。
 - (3) 地元への説明は、資料での説明の段階は終わり、具体的な実例を示す段階にきているのではないか。

2. 次世代エネルギービジョン(案)について

- (1) まちの未来像の中で、自然災害に強いまちづくりという視点が欠けているのではないか。災害時でもエネルギー供給ができることを示すべき。
- (2) まちの未来像の中に、若い世代についての記載があるが、安心して子育てできる環境という視点を追加してほしい。
- (3) 化石燃料についての記載があるが、化石燃料を最先端で有効活用するトリジェネレーションについても記載を検討してほしい。
- (4) エネルギー多消費産業の立地促進という表現は、見る人によっては誤解を招いてしまうので、文言を検討したほうがよい。
- (5) 既存の原子力発電、火力発電にプラスして再生可能エネルギーを考えると、スマートグリッドが基盤的なシステムとして予定されるので、社会全体で作り上げていかなければならない。

3. 行動計画(案)について

- (1) 事業を始めるにあたって、通信インフラが完全に整備されていることが条件であるが、薩摩川内市は十分なのか。
- (2) 行動計画の具体的事業の実施に関し、事業採用の可否についての判断はどこが行うのか。
- (3) 長期的に先を見据えて志を高く持ってテーマを考え、市内だけではなく近隣も含めたモデルとなるテーマにしていくことが必要である。
- (4) ビジョンを絵に描き理解しやすくなり、また行動計画もテーマを示し非常に夢のあるものになったが、今後は行動計画を更に具現化して、その優先順位や予算等も示していくことが重要となってくる。
- (5) 地区コミュニティ協議会での実証は、インフラがある程度整備されている地域で、コミュニティ協議会での理解度が必要である。

4. 行動計画(案)に関する具体的な事業について

- (1) 市民と地域の交流を促すスマートアクセスの実現について
 - (ア) 電気自動車(EV)だけでなく、プラグインハイブリッド車(PHV)の利用を検討してはどうか。まだ4・5年は、PHVのほうがよいのではないか。
 - (イ) EVを導入するとき、市だけが負担するのではなく、国策に沿った事業として国の制度資金を活用すれば、もっと違った収支計画を立てることができるのではないか。

- (2) 立地環境等を踏まえたエネルギーの賢い使い方に関する仕組み作りについて
 - (ア) スマートグリッド実証事業として、一般家庭における数百件規模での実施については、全国的にもあまり事例はない。
 - (イ) スマートグリッドの国際標準化が進められているが、立ち遅れているところがあり、このようなプロセスで取り組んでいき、進化した形をどんどん提案していけば、国の次世代技術開発プロジェクトを引っ張ってこれるのではないかと。

5. その他

- (1) グリーン税制の全体を整理した資料を出してほしい。
- (2) 金融機関は、事業主体がしっかりしていなければ、SPCを設立しても融資してくれず、資金調達の面では厳しい。

以上